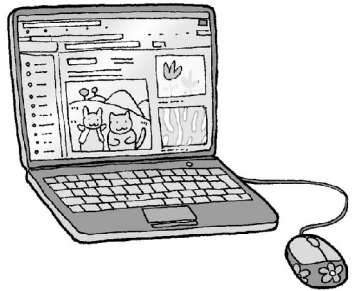


子どもたちの教育予算があまりにも少なすぎます

計画的に増やすはずの子ども用パソコン整備は増えるどころか、計画策定時より大幅減!?



市は24年度に、「29年度にパソコン1台当たりの子どもの数が3.6」になるよう児童・生徒用のパソコン整備に取り組むことを決めました。しかし5年経ってみると、実は計画スタート時よりも悪化しました。計画通りいかないこともあります。スタート時より悪くなるなどありえない話です。市は「パソコン教室や教室に一台のパソコンは整備できたから支障はない」と答えましたが、それなら何のための計画だったのか。やる気以前の話しになります。

29年度各会計決算に共産党は反対

義務教育は無償のはずなのに、教材費として保護者は平均で小学校で3963円、中学校は7981円も負担しています。中には1万円を超える学校もあります。その理由は各学校に交付する学校配当予算が少ないためです。市は「子ども一人当たりで見ると少しづつ増やしていますが」と言っています。それは子ども数が増えるから減っている。総額を、毎年減らしている。総額からひどい話です。

重すぎます

**教材費の保護者負担は
小学校4千円、中学校8千円**

学校配当予算の推移

	児童・生徒数	学校配当額
26年度	11,811	180,874
27年度	11,571	180,397
28年度	11,306	177,720
29年度	10,973	175,909
30年度	10,530	174,807

(人) (千円)

村上議員は学校給食費の無料化を提案しています。



学校図書、文科省の基準通りに整備しているのは小3、中4のみ

文科省は、学級数の応じて整備すべき学校図書(図書標準冊数)全国的には小学校で66・4%、中学校で55・3%の学校がこの水準を超えています。しかし、釧路市内でこの水準に達している学校は、小学校3校(11・5%)、中学校は4校(26・7%)しかありません。全国平均を大きく下回る全道平均(小35・2%、中38・0%)と比べても極端に少ないことがはつきりわかります。



市議会議員



参議院議員 紙 智子
前衆議院議員 紙 和也

今回、子どもたちの教育予算ということで、学校配当予算と教材費の父母負担、パソコン整備費、学校図書費について調査・質問しました。いずれも深刻な実態があらかになりました。引き続き、教育予算の充実のためにがんばります。

村上かずしげ通信

18.10.14

日本共産党釧路市議団23-5212